

## 第1回ワーキングの主な意見と対応について

分類	委員意見	対応	素案
河川 下水道 対策	宇治川が氾濫することを心配している。	宇治川の下流にはJR神戸駅周辺の地下街も有り、重要な地域であるため、河川整備計画を策定し、対策を実施していくことを記載。	P42
	河川改修に必要な予算を確保し、事業を進めて欲しい。	河川整備計画の策定後、事業に必要な予算を適切に確保する。	—
	新湊川が土砂で閉塞することを心配している。また、天王谷川に隣接する家屋が崩壊すれば、下流の河川を閉塞してしまうのではないのか。	現地確認を行い、明らかに洪水の流下に支障となる土砂・転石を優先して撤去することを記載。	P42
	石井川では、上流からの転石があるので撤去することはできないか。		
	浸水想定区域図では、妙法寺川は広い範囲で浸水することとなっているが対策は行わないのか。	河川下水道対策として、河川改修を実施し、流量を調節する貯留施設を計画することを記載。	P42
流域 対策	学校や道路などの公共施設の地下で貯留することが有効ではないか。	県営住宅の建替え時には、浸透・貯留施設を整備することを記載。 公園、学校、歩道等を改築・修繕する際、浸透・貯留機能に配慮した施設の整備に努めることを記載。	P47～ 53
	昭和13年の阪神大水害では土砂で川が埋塞したので、治山も大事である。	第2次山地防災・土砂災害対策5箇年計画の整備促進やグリーンベルト事業を進めることを記載。	P58～ 62
減災 対策	避難場所の周知が必要である。新入居者や観光客などにも周知することが大事である。	指定避難所については神戸市が広報誌(KOBE防災特別号)で周知していることや、避難所に看板を設置していることを記載。 県ホームページでもCGハザードマップとして公開していることを記載。	P90 P64
	避難情報を円滑に提供して欲しい。	防災福祉コミュニティや消防団の役員等に配布している同報無線の活用やひょうご防災ネットへの登録を普及することなど、複数の情報提供を行っていくことを記載。	P70 P80
	減災対策としては、消防と連携して防災福祉コミュニティが機能している。今ある組織を活用することが大事である。	今ある組織も活用させてもらいながら、県が支援できる対策を追加するよう検討。	—
	防災福祉コミュニティでは、防災訓練の実施や要援護者の支援方を考えている。	高齢化社会では要援護者の支援方策は重要な問題であり、防災福祉コミュニティで議論された方策を本計画に反映させていきたい。	—
	防災福祉コミュニティの会合などに来る人は、殆ど70歳以上である。若い世代にも参加して欲しい。世代を越えた良好なコミュニティが必要である。	防災福祉コミュニティ等からの依頼を受けて、小学生を対象とした貯留・浸透のジオラマ模型を使った出前講座を実施することを記載。	P69
	小・中学生を集めたイベントを行うと、親が参加してくれるので、若い人を集めやすい。		
その他	都賀川上流の長峰ダムは20m位の高さだが、現在は満砂状態である。土砂の撤去は行わないのか。	砂防えん堤は、満砂状態になると谷筋の傾斜が緩くなり、流水の速度が遅くなることから、土砂流出を抑制する効果を見込んで計画されている。このため土砂は通常は撤去しない。	—
	広島で土砂災害が発生したが、神戸では「この程度の雨までは大丈夫」といった指標はあるのか。	河川は1時間80mm程度の雨による洪水を流せるよう整備している。土砂災害と洪水では現象が異なるため、一概には言えない。	—
	広島は花崗岩が風化した真砂土で災害が発生した。六甲も同じ地質なので心配である。有効な対策を実施して欲しい。	六甲山系は昭和13年の阪神大水害以降、国、県により多く川や山の対策を実施している。今後も計画的に対策を進める。	—